

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

4月17日（木）に全国の第6学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、本校の調査結果の概要をお知らせいたします。本校の平均正答率は、国語科・算数科では全国平均を下回り、理科では全国平均を上回りました。

国語科において、「話すこと・聞くこと」は全国平均を大きく下回り、「書くこと」「読むこと」は全国平均を下回りました。

算数科において、「数と計算」「データの活用」は全国平均を下回り、「図形」「測定」「変化と関係」は全国平均を大きく下回りました。

理科において、「生命」は全国平均の大きく上回り、「エネルギー」は全国平均を上回りました。「粒子」「地球」は全国平均を下回りました。

特に、国語科では、昨年度「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られましたが、校内で学力向上委員会を組織し、国語専科を中心に授業改善を進めたことで、今年度は全国平均を大きく上回りました。

算数科では、一人一人の正答数に大きな差が見られましたので、理解度に応じた習熟度別少人数学習を、担任と教務主任が連携し、計画的・意図的に進めていきます。

理科では、思考・判断・表現を評価する問題に課題が見られましたので、実験の結果を予想し、表現する力を育むことを目指した授業改善を進めていきます。

児童質問紙では、「将来の夢や目標を持っている。」、「人の役に立つ人間になりたい。」と肯定的に答える児童の割合が全国平均を上回りました。

一方で、「自分には、よいところがある。」と肯定的に答える児童の割合が全国平均よりも大きく下回り、自己肯定感の向上が課題となっております。児童の主体的な活動の推進や成功体験の積み重ね、異学年交流等、子どもたちの自己肯定感の向上を図る取組を進めていきます。

